

### 持経宿・平治宿の巡回整備(雨水貯槽水抜きなど)

◇実施日：平成27年12月06日(日) 薄曇時々薄日

◇参加者：玉岡憲明・明、沖崎吉信、児嶋道夫、川島 功、

松本吉殖、濱野兼吉、生熊敏男・千満子、中前 偉、

野間 清・愛、石橋哲郎・隆子、塩川真武、東 敬子、

青木宏充。

計17名

新宮山彦ぐるーぷの活動に参加させていただくのは、6月6日の持経宿改築前の事前作業以来です。

午前8時に下北山スポーツ公園に集合とのこと7時半ぐらいには到着していました。参加者らしき人も、ちらほらお見掛けするのですが、軽く会釈だけで済みます。どうも人の顔やお名前を覚えるのは苦手です。私の名前は先日亡くなられた塩川正十郎先生のおかげで覚えてらっしゃる方達もいらっしゃったようですが、(塩川正十郎先生と遠い親戚でもあれば少しは鼻が高かったのですが、どうやら関係がないようです)



池原スポーツ公園にて

8時過ぎて新宮からの本隊が到着。初参加の熊野修験へ参加の東(あずま)さんの紹介と軽く作業説明があった後、車4台に分乗して持経宿をめざしました。

池郷林道は石や木の枝の落下が多く、再三先頭車両から人が下りて撤去しながら進みます。9時過ぎ持経宿に到着しました。

ここで、持経宿に残り作業する班(玉岡憲・玉岡明・沖崎・生熊敏)と平治宿に移動して作業する班(川島・中前・濱野・児嶋・石橋夫妻・野間夫妻・生熊千・松本・塩川・東)に分けられ、私は平治宿班になりました。尚、青木氏は行仙宿前泊後、昼前に到着。

持経宿不動堂にて、東さん持参の法螺で中前導師にて勤行が行われ、勤行の後平治宿へ運ぶ荷物の荷造り。



持経宿到着！

作業打合せ

不動堂で勤行

私は毛布5枚を運ぶことになりました。背負子に毛布を括り付け、さて自分の私物のリュックをどうやって括り付けようか悩んでいると東敬子さんが、私が荷物を持ちましようとお声をかけてくださいました。もっとコンパクトに荷物をまとめておけば良かったのですが、大したものも入っていないのに無駄に大きなリュックで来てしまったのが失敗です。申し訳なかったのですが、お言葉に甘えてリュックを持っていただきました。

他の人は薪三束と枕10個を手分けして背負子に積んでいまし



た。



毛布5枚の荷

薪を荷造り

9時半ごろ持経宿を出発。途中、千年桧祠でも勤行が行われました。



平治宿班組出発！

千年桧祠で勤行

10時20分ごろ「千日刈峰行第一回S59・6・9〜10」の看板を通過。廃れて藪で覆われていた南奥駆道の刈拓きが31年前この区間から始まったのを示す道標です。

10時半すぎ平治宿に到着。到着間もなく各自作業が始まりました。野間夫妻・東さんは、転法輪岳山頂へ。

運んできた薪は薪置場におかれました。

便所の横にあるドラム缶の雨水貯槽の水抜き作業をする。

これは、便所水洗を手動で水を汲んで流すためのものですが、

冬季には凍ってしまい破損してしまう可能性があるため、毎年水を抜いているそうです。この日は1cmほど氷が張っていました。



落葉で平治宿が見える！

平治宿着

運んだ薪を薪棚へ

去年はもっと分厚く氷が張っていて、氷を砕くのに難儀したこと。洗面器で水をかき出し減らしたところひっくり返して水を捨てました。小屋の横にも雨水貯槽があり、こちらはプラスチック製のタンクでした。これも同様に水をかき出し最後はひっくり返して捨てました。便所のドラム缶とともに空になった雨水貯槽は小屋の横に伏せて置き、風で飛ばされないよう石の上に置いて作業完了。



約1cmの氷



ドラム缶水抜き



雨水貯槽裏返し



その後、水場の補修作業を見に行きました。平治宿の水場は登山道を挟んだ反対側に7分ほど下った所にあります。岩盤を伝って流れ出る水は、鉄製水槽に貯めるようになっていたのですが、水の流れが変わり僅かな水の流れになると、水槽のふちの外側を通るようになって水が溜まりにくくなっていったとのこと。そこで水槽のふちにセメントを打って水槽に水が入るようにしました。私が水場に下りて行った頃には、ほぼ作業が完了するころでした。



水場の水溜めのセメント補修

水場の作業も終わり、小屋にもどったのが11時20分ごろ。小屋の中では女性陣が毛布をチェックしているところでした。毛布は一部ネズミにかじられて穴だらけになっていました。仕方がないのでそのまましまい、何かあったときに床に敷くなどして使って貰おうということになりました。防虫剤を入れ替え、新たに持って来た毛布5枚と枕10個に先日運んだ枕カバーをかぶせて毛布置場にしまいました。

11時半ごろ昼食タイムになりました。カセットコンロでお湯を沸かし紙コップで温かいインスタント味噌汁が配られました。

コンビニおにぎりの簡単な昼食しか用意していませんでした。ここでも、やかんの取っ手が外れるというハプニングが、お湯がか

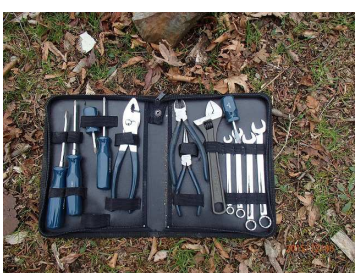
からなくて良かった。早速、松本さんと石橋さんが針金を使って補修されました。



平治宿の昼食・休憩

ヤカン修繕

さて、残る作業は児嶋氏による薪ストーブの修繕と再組立です。このストーブ、薪の炎の熱を煙突に逃さず効率よく部屋を暖める工夫がされているそうです。ストーブの下側にある焚口ではなく、無理荷に上にある窓から薪を入れてしまっていたようで、そのため不調に陥っていたそうです。



ストーブ点検・修繕後再組立

児嶋氏寄贈工具セット

12時40分ごろにはすべての作業を終え、記念撮影後持経宿へと戻りました。



平治宿班作業者



平治宿をいざ出発！



13時半ごろ持経宿にもどりました。

持経宿班は、千年檜の注連縄編み、便槽の汲み出し、ベンチの嵩上げ。雨水貯槽の水抜き等の作業が終わっているようでした。

小屋内では、吉開賢淳師から祝賀会御礼のリンゴやお菓子などとコーヒーを頂き休憩。



下山前・持経宿で休憩

本日の作業者

14時半ごろ持経宿を出発・15時15分ごろにはスポーツ公園にもどり、代表からの挨拶の後、解散となりました。

### 行動タイム

新宮 7:00→8:10 池原スポーツ公園 8:25→9:15 持経宿 9:35→10:25 平治宿(昼食 11:35) 12:45→13:30 持経宿 14:30→15:15 池原スポーツ公園 15:25→16:35 新宮

### 寄贈品

児嶋道夫；工具セット(平治宿)と速乾セメント(約1kg)。  
畑林清子；枕10個(平治宿)  
中前 偉；毛布25枚(持経宿20枚、平治宿5枚)。

(記 塩川真武)